

令和6年度ブラッシュアップ事業 授業改善研修会（小学校・特別活動）

授業カブラッシュアップ研修会は、学習指導要領の趣旨や内容等に基づいた指導改善を図るため、モデル授業の提案を中心とした授業改善研修会を通して、教員の一層の授業改善・充実の促進に資することを目的に行われています。今号は、10月11日に平泉町立長島小学校で行われた小学校特別活動の研修会について紹介します。

部会テーマ

学級活動における主体的・対話的で深い学びの実現 ～一連の学習過程を通じた指導の工夫～

授業の視点

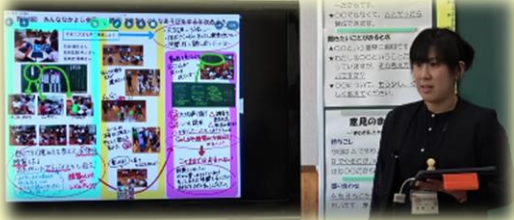
- (1) 課題解決の過程を自覚し、次の課題解決や新たな問題発見につなげる振り返りの工夫について
- (2) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る ICT 活用について

～ブラッシュアップメンバー～

授業者	平泉町立長島小学校
	渡邊 紋 教諭
支援員	一関市立南小学校
	和久井 里佳 教諭
支援員	一関市立藤沢小学校
	馬場 瑠莉 教諭

授業の様子から

- ◆ 「“低学年のリーダー” レベルアップ大作戦！の計画を立てよう『1・2年生と仲良くなろう』という議題を選定し、一連の学習過程の中で成長や課題を一目で振り返るために、会議ノートの工夫や ICT を用いた授業者からの提示の工夫などがされていた。それにより児童が思いや願いをもち、学びや課題を自覚して主体的に問題解決のサイクルを回していた。これまでの話合いや活動を全体で振り返ることで、過去の経験をもとに児童が思考を深める姿が見られた。また、問題の解決に向かって試行錯誤しながら実践を繰り返すことを通して、本時の話合いに向かっていった。
- ◆ 児童と教師が話合いの目的やよりよい合意形成に向かうために大切なことを共有しながら話し合っていた。児童は、意見そのもののよさや問題点に着目し、少数意見にも目を向けて考えることで、目的や条件に照らして合意形成に向かっていた。



研究協議で話題になったこと

- ◆ 繰り返し経験することで児童に力がついている。
- ◆ 一連の学習過程の中で、成功体験も失敗体験もどちらも振り返り次につなげる機会をつくるのが大切である。
- ◆ 振り返ることによって、話合いの見通しをもつことになり、明確なゴールに向かうことで児童が主体的に話し合うことができる。
- ◆ ICT を活用することで、一連の学習過程を捉えたり、進行に役立てたりすることができる。



講義・演習から学んだこと

県南教育事務所 寺山 幸代 指導主事

- ◆ 集団活動をよりよくするために何をすべきなのかを児童が主体的に見出すこと。
- ◆ 学活(1)のみならず、(2)(3)においても、課題の設定から実践、その取組の振り返りまでの一連の活動を「実践」と捉え、基本的な学習過程を繰り返す中で資質・能力を身に付けていくよう、授業づくりを進めていくこと。
- ◆ ICT 活用については、意見の整理分析のためにシンキングツールを用いたり、他者の考えや過去の実践を共有したりするなど、児童が自分のタイミングで必要に応じて選択しながら活用すること。

<参加者の声(一部抜粋)>

授業改善に向けて

- ・ 問題の発見、課題設定から始まり、話合いや決めたことの実践を通して振り返り、次の課題解決へと一連の流れを一つの実践として繰り返し行うことを意識したい。
- ・ 認め合おうとする見方・考え方、互いの良さを生かすような見方・考え方を大切にしたい。
- ・ 自分事として話し合うことのできる議題を選定し、合意形成をする経験を積んでいきたい。
- ・ 「なすことによって学ぶ」を意識して、特別活動を行いたい。

